

○議長 横尾 武志君

次に4番、萩原議員の一般質問を許します。萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

4番、萩原です。通告書に従いまして質問してまいります。今回は、この芦屋港活性化基本計画に沿ってお尋ねしてまいりたいと思います。

件名1、今後の芦屋港活性化推進事業について。

2019年3月に策定された芦屋港活性化基本計画には、整備計画のイメージ図も示され、大きく変貌する芦屋港に期待を寄せる住民の方も本当に多いと思います。しかし、昨年から続く新型コロナウイルス感染症に伴い、人との関わりや社会情勢、さらに経済も本当に大きく変化いたしました。また、福岡県からのゾーニング変更で、港湾内部の安静を保つための構造物である波除堤を新設予定で、海への影響も心配されます。今後、現在の計画のままで進めることが適切かどうか、再検討が必要ではないかと考えます。そこで、次の点についてお伺いします。

要旨1、ボートパーク及び海釣施設の整備による海への影響について。

芦屋港にボートパークを新設する理由は、調べましたらいろいろありました。その一つに不法係留船対策があります。遠賀川河川事務所のホームページ情報では、西川、汐入川を含む遠賀川、江川に171の不法係留船があり、ボートパークの新設は、私は必要だと感じました。

今回、海中に波除堤という構造物を設置することで、魚の釣れ具合——釣果、そういったものに影響はないのか。また、何か対策されるのか。ボートパーク新設に伴いこういった課題があると考えますが、いかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

釣果に影響はないのかということでございますが、ボートパークにおきましては波の影響がないこと、海釣施設におきましては一定の釣果が見込めること、これが必要となります。このため、波除堤の構造を工夫しております。

具体的に申しますと、従来の壁のような構造の堤防では波をそのまま反射してしまうため、今回は直立消波型という構造を計画しております。これはどういったものかといいますと、外側です、波を受ける側に一定間隔で防波堤の中央付近まで洞窟のような穴を設けることで、受けた波を緩やかに戻すという構造です。近隣では、宗像市の大島にある「うみんぐ大島」の釣り防波堤が同じ構造を採用しております。これによって、船舶航行の安全と釣果に一定の効果があるというふうに考えております。また、釣果につきましては敷石の設置、これによって魚が居着きやすい環境をつくるように計画しております。

令和3年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

なお、それぞれの施設はこれから福岡県により詳細設計が行われますので、この際に詳細な検討がされるようになると思います。

以上です。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

釣果対策はされるようですが、新たな工事で潮の流れが悪くなり、また、海水の汚れやごみがたまるといった、そういった問題は発生しないのかお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

事業主体であります福岡県におきまして、ボートパーク整備のための静穏度調査といたしまして、波が静かで穏やかな水面を維持できるかという調査を昨年実施されております。その結果で、ボートパークが整備できるというふうな結果になってるんですが、それ以外の調査というのは、まだ行われておりません。検討段階におきましては、砂の流入などの懸念が考えられますので、波除堤の整備による潮流の影響調査が必要なことを県に要請しております。

また、プレジャーボート係留施設専門分科会におきましては海岸工学の有識者に参画いただいております。適宜意見をもらっているところでございます。環境が悪化しないために、ごみの話が出ましたが、環境が悪化しないための必要な対応につきましては、ほかの事例におきましては、施設管理者が日常的な維持管理の一環として行っているというのがほとんどでございます。これをごみの流出、漂着ごみだけではなくて燃料の流出とかも考えられますので、そういったものも一環として行われております。漂着ごみにつきましても当然想定されますので、日常的に清掃管理をしていくということで想定しているところです。

以上です。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

この基本計画93ページに掲載されているファミリーフィッシングなど、釣りのイベントには多くの参加希望があると聞いています。そこで、女性やファミリーなど誰もが気軽に釣りを楽しめる施策というのをお考えでしょうか。お尋ねします。

○議長 横尾 武志君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

現時点では、施設としましては手洗い場やトイレなどの整備を考えておりますが、ほかに、手ぶらで来て楽しめるような道具のレンタル、また、釣った魚の処理といったサービスを考えています。しかし、施設整備まで少し時間がありますので、運営方法を具体的に定めていく段階で、いわゆるニーズに合ったものに対応していこうというふうに、現在、検討事項ということで捉えているところでございます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ごみは各自で持ち帰るといった、本来は釣り客のマナーの問題であると思います。先ほどの中西議員の話からも、ただ、なかなか守ってもらえないのが現状ではないかと考えています。しかも、先ほど室長からもお話がありました手ぶらで来ていただく、レンタルざおなどの気軽に釣りを楽しんでもらうような計画になっている場合に、ごみの回収などもセットで考えていく必要があると思います。海釣施設を造るということでありましたら、ぜひその点もしっかり検討していただきたいと思います。

要旨2、全天候型施設の在り方について。

基本計画の95ページに、冬場の来訪者確保の手段として、安定的にイベント開催ができ、集客力向上のため全天候型施設を整備し、その活用方法として砂像展示を想定していると書かれています。

昨年から続く新型コロナの影響で社会経済も大きな影響を受け、ワクチン接種も開始されますが、まだしばらくは新型コロナの影響、変異種や新たな感染症が発生する可能性も否定できません。また、砂像を常設展示すればいつでも見られるようになり、逆に本来の砂像展の来場者が減少するといった可能性はないのでしょうか。この集客方法が適切か、今一度、開業時期など再検討するお考えはないのかお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化基本計画では、御指摘のとおり、観光集客機能として天候の影響を受けずにイベントなどが実施できる施設、活用方法の一つとして、芦屋町のキラコンテンツの一つである砂像の屋内展示を想定しているというふうにまとめておりますが、芦屋港へのにぎわい創出として、集客効果が高い機能がここには求められるというふうに考えております。現在、砂像に限定せず

令和3年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

幅広い視点から活用方法の検討を行っているところです。

この検討に当たりましては、御指摘のとおり新型コロナウイルス感染症の影響により社会経済環境が大変大きく変化しているということを認識しておりまして、この点を踏まえて、現在しっかりと検討を行っているところでございます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

要旨3、サイクルステーションの在り方やサイクリングを生かした町への回遊について。

現在ですね、芦屋町観光協会さんがレンタサイクル事業を行い、年々業績を伸ばしております。この基本計画にも、休憩や簡単な自転車の整備ができる場所としてサイクルステーションを整備するようになっていきます。このサイクルステーションが完成するまでの間、さらにレンタサイクル事業の業績を伸ばすための施策をどのように考えておられるのかお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

レンタサイクル利用者を増やすための施策ということで、所管課の産業観光課のほうからお答えいたします。

レンタサイクルは、平成21年度より芦屋町観光協会の独自事業として実施されているものでございます。今年で12年目を迎えており、利用者は年々増加傾向にあります。

御質問のレンタサイクル利用者を増やすための施策についてですが、事業を行っております観光協会に伺ったところ、平成30年度よりレンタサイクルと連動して行っている町内回遊キャンペーンの利用者の拡大に努め、レンタサイクル利用者の特典としてPRしていきたいとの回答をいただいております。この町内回遊キャンペーンの内容としましては、レンタサイクルを利用し、町内の指定店舗等での物品購入などの支払い額に応じ、最大600円、2台分のレンタサイクル利用料をサービスするというものとなっております。

現在、このキャンペーンの利用者も増加傾向にあり、レンタサイクルと町内回遊キャンペーンの組み合わせによる相乗効果が現れているものと考えられます。このことから、レンタサイクル自体のPRはもちろんですが、町内回遊キャンペーンをもっと知っていただくことにより、レンタサイクルの利用拡大にもつなげていきたいという考えのようです。

所管課としましても、サイクリングは観光分野の一つのコンテンツと考えており、ロケーションのすばらしい芦屋町を多くの方に知っていただき、訪町を促すようPRに注力していきたいと

考えております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

私も観光協会さんから利用状況の資料を見させていただきました。いただいたのが令和元年と2年なんですけど、とてもよくしっかりまとめられて、どこのお店で何月にどの程度売上げがあったということを書かれてるんですけど。その中で、見させていただいたところで私が感じたのが、お目当てのお店にもともと行こうとしていたとか、何か目的があってやはり行かれているという感じがしました。本来であれば、もともとここに行くつもりだったんだけど、行く予定のなかったこの店に寄ってみようとか、町内どんなふうになっているのかなと思って、ぶらっと回っていただくというのが本当はもっと進めていただきたいところではあると思うんですが、もっといい方法はないのだろうかという資料を見て感じたところです。

また、私は先日、海浜公園の駐車場で遠方からサイクリングに来られた方数名と話す機会がありました。県の南部で「そんなところから来られるんだ。」と逆にちょっとびっくりしたぐらいです。そこで、「このコースを選ばれた理由はどういうことですか。」とお尋ねしたら、「自転車の専用道路があり、安全に走れる。」とか、あとは「無料駐車場がある。」とか。「ここをどうして知ったんですか。」と言ったら、どなたかが上げられたネットの情報を見て、「サイクリングで検索して来た。」ということでした。「なるほどな。」と私も思いました。また別の方も、やはりちょっと遠方の方でした。そちらは遠くからずっと走って来られてみたいで、「サイクリングロードの整備区間の、ここは中間地点となります。」と。「アクアシアンが、ちょうど休憩するのにいいんですよ。」という話でした。で、「何か欲しいものはありますか。」というお話をしたら、「自転車専用のスタンドですね。引っかけるようなものと、あとは気軽に食べれるものが買えるといいな。」というお話とかはいただきました。

将来、芦屋港にですね、飲食店や直売所、サイクルステーションが開業すれば、本当に喜ばれるんじゃないかと感じました。しかし先ほどからも出ています、芦屋港だけではなく町内にも観光客さんがですね、回遊しなければ町は活性しないと私も考えます。コロナの影響で、せっかくレンタサイクルや回遊キャンペーンが好調になって、サイクリストにも人気のコースがあるこの芦屋町、レンタサイクルの利用者やサイクリストが町内を回遊し、本当は行く予定のなかったお店にも立ち寄ろうかと思っていただけるような施策が絶対に必要ではあると思いますが、その点についてどうお考えかお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港に整備されるサイクルステーションの視点でお答えをさせていただきたいと思います。

芦屋港に効果的な機能の一つとしまして、サイクルステーションがございます。これは、福岡県が推進するサイクル&トレイル福岡の複数のサイクルルートの分岐点に立地することや、海岸線を走るサイクリングロードの景観のよさ、また全国的なトレンド、こういったものがありまして、ポテンシャルが十分にあるというふうに捉えております。

芦屋港活性化事業におきましては、先ほどの中西議員の答弁でもお答えさせていただきましたが、芦屋町の観光まちづくりに必要な「ヒト・モノ・コト」を有機的につなぐことを大切な視点と捉えておりまして、単に施設整備を行うものではなくて芦屋町にたくさんある資源や魅力を磨き、ヒトが活躍し、それまで点と点であったものを線でつなぎ、さらには線が重なって芦屋町全体を面として広げ、町内全体に経済効果が生じることを目的としております。このため、サイクルステーションを単に整備するというのではなくて、サイクリストの皆さんに町内を回遊していただいて、町内でお金を使っていただく仕組み、こういったものがセットでないと成り立たないというふうに考えているところでございます。

また、来年度の当初予算に計上させていただいておりますが、機運醸成事業というものを計画しております。この中では、テストマーケティングの必要性があるというふうに考えておりまして、サイクルも一つのテストマーケティングの対象として何かできないかとか、先ほど言われました、SNSを活用した情報発信について何か取り組んでいくことができないかというのを検討していくようにもしております。こういった中で、やっぱりサイクリングにつきましては重要な視点ということで、今後も検討を続けていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今、室長の答弁を伺いまして、県はですね、芦屋と飯塚間、芦屋と宗像間で自転車専用道を整備しています。特に海岸線を走る芦屋町の専用道は、サイクリストには本当に貴重なコースになっており、私の知人などは「芦屋町の宝ですね。」というお話もされるほどです。県も、県内全域にサイクリングロードをつなげる計画を進めているようですが、残念ながら芦屋町に入ると自転車専用道路の整備はなく、現在は標識とところどころ緑色のカラーが引かれている車道を併用する形になっているだけで、到底サイクリングロードとは私は感じられないと思っています。ただ、芦屋の場合は道路幅の問題があるので仕方なかったのかもしれない。

令和3年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

ただですね、例えばサイクリングで有名な、しまなみ海道サイクリングロードの推奨ルートには道路の端に青色のラインが引かれ、このブルーラインをたどっていけば距離など地図を見なくても尾道～今治間を移動することができるんです。その目的は、多くの方に分かりやすい道案内として、また車道を走行する自転車利用者に対して左側走行の注意喚起として、さらに自動車のドライバーに対して自転車への注意喚起となっています。町内は道路幅が狭く、自転車専用道路をつくることは困難ですが、このようなしまなみ海道のようなブルーラインであれば整備することができ、今後レジャー港が開業した際には、観光客の増加による安全対策の一つにもなるのではないのでしょうか。

さらに、しまなみ海道では休憩や交流の場所として、サイクルオアシスというサイクリング愛好者が気軽に立ち寄り、休憩でき、地域の人々と交流が図れる場所を整備しているようです。現在、アクアシアンがこのような役割を担っているというふうに私はちょっと感じていますが、町内にもサイクリストが気軽に立ち寄れる自転車用スタンドの設置など、環境整備が必要ではないのでしょうか。景観のよいサイクリングロードがある芦屋町が、サイクリングの町として付加価値をつけることで新たな客層の呼び込みにもつながると私は考えますが、いかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化の視点でお答えさせていただきたいと思います。

先ほど議員がおっしゃられました、しまなみ海道のブルーラインだったり休憩所の取組につきましては、我々、検討の中で好事例として参考にしているところでございます。

また、基本計画におきましては御指摘のとおり、サイクリングロード、専用道路がつながっていないということは問題点として捉えております。そういった中で、サイクリングロードが町内でつながっていないという点におきましては、町内回遊に当たって当然危険な箇所もございますが、回遊に当たり影響があるというふうにも認識しております。ただ、この対策につきましては、道路管理者であつたり関係機関との協議・調整というのが必要になりますし、町におきましても複数の課にまたがる案件となりますので、連携した対応が必要となってきます。

今後、実施可否を含めまして、サイクルステーションの整備と併せましてですね、回遊の仕組みを考えるに当たっては大事な視点だと捉えておりますので、今後の検討課題ということで捉えさせていただきたいと思っております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

要旨4、コロナ禍における芦屋港活性化推進事業の経済効果見直しの必要性について。

この基本計画の118ページに、芦屋港における経済効果として年間2億6,483万円と書かれています。私は、本当にこのような経済効果があるならすごいなと思いました。しっかりその資料を読ませていただいて、その根拠では、この基本計画の中で示されているものだけでは不十分ではないかなという感じも受けました。また、新型コロナの影響で社会情勢・経済情勢も変化しています。この年間経済効果の見直し、現時点で必要ではないかと私は考えますが、いかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

御指摘の経済効果につきましては、芦屋港活性化基本計画策定時におきましては十分なデータが整っていなかったこともありまして、限定的な消費額となっております。また、御指摘のようにコロナウイルスによりまして、大きく社会経済環境も変化しているという状況でございます。

芦屋港活性化基本計画におきましては、社会経済環境の変化に柔軟に対応しながら、必要に応じて変更していく方針というのがございます。そこで、令和2年5月に策定した変更後計画におきましては、ポートパーク、海釣施設につきましてはある程度精査を行っておりますが、その他の施設についてはこれからの検討事項となります。御指摘のように、社会経済環境の変化に合わせて、飲食・直売機能であったり、ほかの機能、こういったものの考え方や施設規模、集客力、そういったものを全体の見直しが必要だというふうには考えておりますが、飲食・直売機能に関しましては、芦屋の海の魅力を生かすためには必要な機能というふうに考えておりますので、こういった形で成り立つのかという形で、現在検討を進めているところでございます。

芦屋港への導入機能につきましては、町内全体に経済効果を生み出す機能、また芦屋町の交流人口・関係人口、これらの増加に寄与するものが必要だということで考えております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

最後に、私は2月6日、あるオンライン研修で、宮崎県日南市油津商店街の再生に取り組まれた木藤さんのお話を伺いました。その中で特に印象に残ったのが、「油津における成功要因は、再生しないこと。」と言われたことです。昔のよかった頃に戻る再生ではなく、今をゼロと捉え、これからの社会変化に対応し、求められる町の新しいあり方を探し、形にするというお話でした。

令和3年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

これは、今の芦屋海岸にも通じるのではないかと私は思いました。昔の芦屋海岸に戻すのではなく、今の海をゼロと捉え、これからの社会変化に対応し、求められる芦屋海岸、芦屋港の新しい在り方を探し、形にしていくことだと私は思っています。

また私は、海に面した地域にある同じような直売所や飲食店をつくっただけで、常に人が来るとは思えません。木藤さんは「新しい店をつくるのではなく、人を集める仕組みをつくる課題設定をどうするかで事業の見え方が変化する。」とも言われていました。芦屋町の商店街もシャッター街となり、油津と同様の現象が起きています。この事業計画は、芦屋港だけではなく町全体の活性化になれば意味がありません。ボートパークや海釣施設に多くの観光客が来ることは、よいことだと思います。でも、海が汚れてしまっては仕方がありません。どうか、海が汚れないような方法をしっかり検討していただきたいと思います。また、町に人が回遊する仕組みの一つとして、サイクリングロードなど環境整備を町全体で考えていただきたいと思います。この、しまなみのブルーラインのような線が町に真っすぐ引かれた際には、本当に町が美しくなるんじゃないかと私は思っています。ぜひ、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

最後に、冬場の風や砂が問題視される芦屋海岸ですが、この砂や風をあえて芦屋の強みとして、人を集める仕組み、アクティビティをしっかりと考えていただきたい。そういった特徴のある計画にしていきたいのです。今ある町の資源を生かし、環境に優しく、みんながあっと驚くような基本計画にしていきたいと願い、私の一般質問とさせていただきます。

○議長 横尾 武志君

以上で、萩原議員の一般質問は終わりました。